

# 窓辺

## 医療機器産業

いけの  
池野  
ふみあき  
文昭

静岡県は、医療機器生産

額が全国ダントツの1位である。2位栃木県の2倍以上だ。東日本大震災後に政府が打ち出した日本再興戦略「三本の矢政策」の第三の矢は、日本のものづくりを生かした医療機器産業で日本経済を復興させるといふものだ。

ならば、日本の医療機器の貿易収支はどうなっているのか？

なんと、7千億円以上の貿易赤字であり、毎年2桁で増加している。要するに、医療費、つまり国民の税金が毎年7千億円以上海外に

流出している。

赤字の内容はほとんどが治療機器、特にペースメーカーや人工関節のような植え込み治療機器だ。国産企業は診断機器は強いが、治療機器の多くはアメリカ製。単価も高額で、絶対的な貿易赤字を生んでいる。

ならば、外国製品を購入しなければいいという意見もあるが、そうすると、多くの本邦の患者様が治療を受けられずに死んでいくことになる。なぜならば、国産植え込み治療機器は、テルモ社の一部の製品を除きほとんど存在しないからで

ある。打開策はただ一つ。国産治療機器、特に植え込み型の治療機器を作ることであり、それを国内市場だけでなく海外に輸出することである。

逆に何故、アメリカはそんなに治療機器に強いのか？ 答えは、斬新なアイデアでリスクに挑む医療機器ベンチャー企業の存在である。

医療機器生産額第1位の本県は、日本再興のため重大な責任があると言える。

世界最大医療機器ベンチャーの集積地シリコンバレーの経験をわが故郷・静岡県、そして日本のために生かす時が来たと思っ

（スタンフォード大  
主任研究員、医師